

1 題材名 思いを木にたくして

2 題材の目標

自分の思いを木に例えて主題を生成し、表現形式の特性や材料、用具の特性を生かして表現を工夫する。また、自他の作品のよさや作者の心情を味わう。

3 題材について

(1) 題材観

本題材では、校内に生えている木に自分の思いや感情を結び付けて、対象の木や風景を描く活動を行う。高等学校学習指導要領芸術の美術I内容A表現(1)では、「感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。」と示されている。本題材では、木の形や色などから感じ取ったことと自己の内面を結び付けて主題を生成することができると思う。また、この題材を通して、普段は気につかない校内の木のよさを再発見し自己の内面に向き合うことは、身近にあるものを、感性を働かせて深く見つめるとともに、自己を主体的に表現する能力の育成につながると考える。

(2) 生徒の実態

本校の4年次生で芸術の美術を選択している生徒は、美術の課題に熱心に取り組んでいる。しかし、自己の内面と深く向き合うことを苦手としている生徒が多く、発想・構想の場面でアイデアが出ずに困る様子が見られる。また、技術面での上達に執着することで、表現の幅が狭まってしまう生徒も見られる。

(3) 指導観

本題材は、校内にある木と自己の内面を結び付けて描く活動を行うため、多様な表現を生徒に提示する必要があると考える。まず、ワークシートで自己の内面と向き合い、それを踏まえて対象の木を選択する。内面の例では、思いや感情、気になる木や風景を描くなどを提示する。また、着彩の段階では絵の具を主な描画材とするが、他の描画材やモダンテクニックなどの技法を使っている作例を見せ、表現方法の工夫を促していく。

4 題材の評価規準

観点	美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	<p>表現「思いを木にたくして」というテーマを基に、自己の内面や木の形を見つめて表現することに関心を持ち、主体的に主題を生成しようとしている。</p> <p>鑑賞他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取り、作品などについて理解を深めようとしている。</p>	<p>・「思いを木にたくして」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、自己の内面や木の形から主題を生成し、表現形式の特性を生かして、創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>・技法や材料、用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。</p>	<p>・他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情を感じ取り、作品などについて理解を深めている。</p>

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

次	時	●学習のねらい・学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 ()は評価方法
			関	発	技	鑑	
1	1	●自分の過去や内面を振り返る。 ・プリントに沿って自分の過去や内面を振り返る。 ・校舎内の木の写真を見て、形の特徴を考えて自分と結び付ける。	○				・自己の内面を見つめ直し、どのような形の木がっているかを考えようとしている。 (観察) ・校舎の木の例と自己の内面を結び付け、制作に向けて意欲を高めている。 (観察、ワークシート)
2	2	●自分の内面を表したような木や興味をもった木を探し、スケッチする。 ・校舎内を散策し、実際にどのような木があるか注意深く見ていく。 ・自己の内面や自分のイメージに合った木を探す。	○				・普段は気にかけていない場所や生えている木の様子に関心をもちながら散策し、自己の内面やイメージに合った木を探そうとしている。 (観察)
	3	・全体の雰囲気や細かい部分が分かるようにスケッチをする。 ・幹や枝、葉などの特徴を文字で詳しく記入する。		○			・木の形や色などに注意しスケッチやメモをとるなどして、主題を生成したり、創造的な表現の構想を練ったりしている。 (観察、ワークシート)
3	4	●スケッチを基に下絵を描き、着色をする。 ●表現方法を工夫し構想を重ねながら表現する。 ・スケッチやメモを基に画用紙に下絵を描く。 ・短時間で木を見に行き、再度イメージを膨らませて描く。		○			・スケッチやメモを基に客観的な木の特徴を捉え、そこから構想を練り下絵を描いている。 (観察、スケッチ、下絵)
	5	・着色をする。			○		・木の色や形から、着色の色や線など造形要素を工夫して表現している。 (観察、作品)
	⑥	・パステルやペンなど、絵の具以外の					
	7	画材を使ってみる。					
	8	・他のクラスの作品を見てよいところ			○		・画材や材料の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。 (観察、作品)
	9	を自分の作品に生かす。					
4	10	●完成作品を鑑賞し、互いの作品のよさや作者の心情を読み取る。 ・グループ内やクラス全体で、互いの作品を鑑賞する。 ・作品からどのような感情や作者のイメージを捉えることができるか考える。 ・鑑賞したことをワークシートに記入し、作者や他の生徒と伝え合う。	○				・互いの完成作品を鑑賞することに関心をもち、作者の感情や作者のイメージ、表現方法の工夫などを作品から感じ取り理解を深めようとしている。 (観察、鑑賞ワークシート) ○ ・作品のよさやそこから感じ取った感情や作者のイメージを他者に伝えることを通して、作品などについての理解を深めている。 (観察、鑑賞ワークシート)

6 本時の学習

(1) 目標

実際に木を見てストックしたスケッチやメモからイメージを膨らませて、自分なりの色や表現を追求しながら着彩する。

(2) 準備・資料

教師：参考作品、画用紙、スパッタリング用の金網とブラシ等の用具、試し塗りの紙

生徒：筆記用具、教科書、絵の具、その他の画材、木のスケッチやメモ、学習カード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
<p>1 本時の学習課題の確認をする。</p> <p>スケッチをもとに色や表現を工夫しながら着彩しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のクラスの作品や参考作品を見て、自分の作品と比べながらよいところを見つける。 ・絵の具やその他の画材を準備する。 <p>2 着彩をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な画材や技法を、自分の表現意図を踏まえて積極的に取り入れる。 (パステルやクレヨン、コラージュ、水彩の技法など) ・互いの作品の工夫しているところを見つけ合う。 <p>3 画材や用具を片付ける。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認し、本時の見通しがもてるようにする。 ・着彩で注意すべきことなどを黒板に明記する。 ・参考作品を黒板に掲示し、各作品のよさや特徴を把握し参考にできるようにする。 ・各作品のよさなどを口頭で簡単に紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の様子に気を配りながら、机間指導で個々の着彩の様子を見る。 ◎木の色や形から、着彩の色や線など造形要素を工夫して表現している。 (観察, 作品) ・絵の具の塗り方や色の選択を迷って手が止まっている生徒や進みが遅い生徒を中心に、どのような作品にしたいかを聞き、表現意図に即した色や技法などをアドバイスする。 ・着彩の方法などを実際に提示しながら説明する。 ・絵の具以外の画材で主題と合っているものを紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾いていない作品やパステルなど、扱いに気を付ける作品について注意を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに本時の内容・振り返り・次回の課題を記入させ、自分の作品について振り返る時間を十分に設ける。 ・次時の予定を伝え、本時のまとめから次の課題を明確にしていくよう呼びかける。